様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月 １２ 日現在

機関番号：３４５２５
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ０４４７２

研究課題名（和文）シュトゥットガルト・アカデミーの改革的伝統とバウハウスにおける発想法教育学の成立

研究課題名（英文）Reformative Stream of Adolf Hoelzel in Stuttgart and the idea of Johannes Itten for the art-school reformation

研究代表者
鈴木　幹雄（Suzuki, Mikio）

関西福祉大学・教育学部・教授

研究者番号：７０１６３００３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,600,000円

研究成果の概要（和文）：　バウハウスの導入教育ルーツは、J・イッテンが学んだシュトゥットガルト・ヘルツェル学派の改革的精神にあった。そこで同経緯と基本的骨格について研究された。他方、繊維工芸中等学校改革実践の研究を通して、もう一つのルーツが発見された。イッテンが繊維工芸教育に取り入れた導入教育(学)は、1920-30年代の実験学校教授学と実験学校の探求教授学を巧みに活用したものであった。
　約一世紀生命を持ち続けたバウハウス教育学の基本骨格は、①ヘルツェル学派の洗礼を受けたJ・イッテンの芸術学校改革実践として、②ベルン師範学校出身教授イッテンの1930年代の繊維工芸教育改革実践の一環として実現されたものであった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　改革芸術学校バウハウスの教育は、デザイン教育、工芸・建築分野の導入教育として、米国、ヨーロッパ諸国、日本、北欧諸国等における芸術大学改革に先駆的な役割を果たした。しかしわが国のバウハウス研究は、バウハウスの導入教育(学)の形成経緯、並びに同教育の自己探求的基礎付けという、同校教育の根幹解明の課題を積み残してきた。
　本研究では、わが国の研究者が入りこめなかったシュトゥットガルト・アカデミーの改革的伝統との接点でイッテンの造形教育実践を視野に入れ、同時にそのイッテンによって1920-30年代の実験学校教授学遺産が水面下でどのように発見・受容・活用されたのか、解明を試みた。

研究成果の概要（英文）：　In 2014, with the help of my friend specialists in Japan, we could publish our book titled “ Reformation of Art Academy in the USA and Germany after or during World War II.”. It brought us our deep understandings about how various art professors had contributed to the realization of reformative art schools in Germany and the USA during and after the Second World War.
　This time, with the help of my research members this time, it became possible for us to realize our research about the underground academic streams which flew from the Academy of Stuttgart to reformative art schools in Germany during and after World War II. For about 8(4+4) years, I have engaged in our new research, “Reformative Streams in the Academy of Stuttgart in the 20th. Century and Impacts of the pedagogical Ideas upon the German Art Schools--Hoelzel School in Stuttgart, Bauhaus and Johannes Itten--”.

研究分野：社会科学（教育学）

キーワード：J・イッテン　1920-30年代の実験学校教育学　芸術アカデミー改革　シュトゥットガルト芸術アカデミー　ヘルツェル学派　発想法教育学の成立

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

わが国のバウハウス研究は既に９０年の歴史を有し、研究上の厚みを獲得してきたが、同時に改革芸術学校バウハウスの導入教育(学)の形成経緯の解明という、同校根幹に関わる研究課題を積み残してきた。導入教育(学)は、同校の教育上の一領域ではあるが、同校が改革学校として成功を収めることになる重要な要石であり、それは外部の世界から供給された。これ迄、J・イッテンの貢献や、シュトゥットガルト芸術アカデミー教授、アドルフ・ヘルツェルの貢献等が断片的情報としては知られてきた。しかし、イッテンが育てられた同アカデミー、ヘルツェル学派の伝統にわが国の研究が入りこめなかったこともあり、バウハウス教育学、とりわけその導入教育(学)と発想法教育学の形成経緯は、今日に至るまで未解明であった。

２．研究の目的

(1)他方ドイツ語圏では､改革芸術学校バウハウスと諸外国におけるバウハウス後継学校についての研究や、戦後ドイツ語圏芸術大学改革の研究に加え、2000 年代以降ヘルツェル学派の研究が進展した結果、バウハウス教育学のルーツが明らかとなってきた。

バウハウスが取り入れた導入教育(学)は、基本的に、体験的教育学を基底とした探求教育学であり、更には発想法教育学であり、重層的に構成されたこの現代教育学的輪郭こそ「 バウハウス教育学」であった。同輪郭の根幹こそ、ヘルツェル学派の弟子ヨハネス・イッテンを介して西南ドイツ、シュトゥットガルトからバウハウスにもたらされたものであり、今日に至るまでみずみずしい生命を持ち続けてきたバウハウス教育学の基本骨格であった。そこに同教育学が有していたエネルギーと、現代的ポテンシャリティーを見ることができる。

(2)そこで本研究では、わが国研究者が入りこめなかったシュトゥットガルト・アカデミーの改革的伝統との接点で、バウハウス教育学とバウハウスにおける導入教育学・発想法教育学がいかに成立したか、解明された。

３．研究の方法

(1)本研究の計画・方法は海外・国内調査・研究と文献に基づいた分析・研究の二点で構成される。

本研究では研究目的を達成する為に次のモティーフを取り上げる。①ヘルツェル学派における改革的伝統とイッテンによるバウハウス教育学の形成・展開過程(担当：鈴木幹雄(文献研究)、阿部 守(構成教育領域における実践的分析・考証))、②バウハウス、クレーフェルト工芸学校におけるイッテンの教育実践と導入教育(学)からバウハウス教育学への展開(同上： 鈴木)、③戦後改革的芸術大学にみる導入教育(学)受容と発想法教育学の波及効果(ニュー・バウハウス、シュトゥットガルト芸術大学)(同上: 鈴木)、④戦後改革的芸術大学にみる導入教育(学)受容と発想法教育学の波及効果、東京教育大学構成教育教室)(同上: 阿部 守)。

(2)研究アプローチ： 本共同研究の当該モティーフの研究には、文献研究・芸術教育学の立場から鈴木幹雄が、バウハウスの導入教育学と発想法教育学についての現代的・実践論的芸術教育学の立場からは阿部 守があたることとした。①、②、③担当： 鈴木(研究歴：戦後改革芸術学校におけるバウハウスの波及効果(事例:バウハウス第一世代､同第二世代)／戦後ドイツ、並びに戦中・戦後米国における芸術アカデミー改革とバウハウス教育学の影響についての研究／ヘルツェル学派のアカデミー改革コンセプト)、④：阿部 守(研究歴：立体造形論／構成教育学の研究／バウハウス教育学と現代構成教育学への影響についての研究、並びに東京教育大学構成教育教室))。

４．研究成果

(1)改革芸術学校バウハウスの教育は、デザイン教育、工芸・建築分野の導入教育として、米国、ヨーロッパ諸国、日本、北欧諸国等における芸術大学改革に先駆的な役割を果たした。しかしわが国のバウハウス研究は、バウハウスの導入教育(学)の形成経緯、並びに同教育の自己探求的基礎付けという、同校教育の根幹解明の課題を積み残してきた。

同校導入教育の重要ルーツは、シュトゥットガルト芸術アカデミー、ヘルツェル学派の改革的精神と伝統にあった。そこで本共同科研助成の研究では、その経緯と基本的骨格について研究がなされた。

更に、クレーフェルト繊維工芸中等学校改革実践の研究を通して、もう一つのルーツの糸口が発見された。K・テーニセンの同改革研究を主文献とした 2010 年代の我々の共同研究によれば、イッテンが繊維工芸教育に取り入れた導入教育(学)のアプローチは、現代用語を用いれば、基本的に 1920-30 年代の実験学校教授学、並びに実験学校の探求教授学を巧みに活用したものであった。重層的に構成されたこの現代探求的教授学の輪郭こそ「バウハウス教育学」を支えた「造形発想教育学」の中心骨格であった。

(2)約 100 年間みずみずしい生命を持ち続けてきたバウハウス教育学の基本骨格と、同教育学が有していた潜在的可能性は、①ヘルツェル学派の洗礼を受けた J・イッテンの芸術学校改革実践として、②ベルン師範学校出身教授イッテンの 1930 年代の繊維工芸教育改革実践の一環として実現されたものであった。

(3)本申請研究では、わが国の研究者が入りこめなかったシュトゥットガルト・アカデミーの改革的伝統との接点でイッテンの造形教育実践を視野に入れ、同時にそのイッテンによって 1920-30 年代の実験学校教授学遺産が水面下でどのように発見・受容・活用されたのか、更にその遺産は戦後の自己探求的芸術教育学としていかに確立されたか、を解明しようと試みた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計9件（うち査読付論文　6件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 阿部　守	４．巻 68
２．論文標題 日本におけるバウハウス発想法教育学の成立に関する考察―感性を研ぎ澄ます教育と福岡における柏崎栄助―	５．発行年 2020年
３．雑誌名 福岡教育大学紀要．第5分冊，芸術・保健体育・家政科編	６．最初と最後の頁 25-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 鈴木幹雄	４．巻 22
２．論文標題 戦後ドイツ敗戦期にみる現代教育学・教育方法学の発生動態について―ゲッティンゲン大学初代教育学博士学位取得者J・ゲープハルトの基礎理論構築を手掛かりとして―	５．発行年 2019年
３．雑誌名 関西福祉大学紀要	６．最初と最後の頁 25-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 鈴木幹雄	４．巻 4(2)
２．論文標題 J・イッテンにみる繊維工芸教育と発想法教育学の構築ークレーフェルト公立繊維工芸中等学校を事例としてー	５．発行年 2019年
３．雑誌名 教育実践方法学研究	６．最初と最後の頁 55-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 鈴木幹雄	４．巻 4(3)
２．論文標題 教育の基礎理論を主体的に学ぶ「教育原理」を模索する	５．発行年 2019年
３．雑誌名 日本教育実践方法学会『大学における教育課程の課題と展望』	６．最初と最後の頁 77-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 鈴木幹雄	4．巻 3(1)
2．論文標題 実践的教育方法学の教育学的貢献とその意味を振り返る―草創期教育方法学・芸術教育学確立期におけるその貢献と栄養供給を事例として―	5．発行年 2017年
3．雑誌名 教育実践方法学研究	6．最初と最後の頁 25-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 鈴木幹雄	4．巻 21
2．論文標題 ヘルツェル学派における発想法教育学端緒の誕生とシュトットガルト・アカデミーの改革的伝統――2000年代ドイツ学説史研究にみるヘルツェル研究の成果を手掛かりとして――	5．発行年 2018年
3．雑誌名 関西福祉大学紀要	6．最初と最後の頁 23-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 阿部　守	4．巻 67（第５分冊）
2．論文標題 日本におけるバウハウス発想法教育学の成立とその周辺	5．発行年 2018年
3．雑誌名 福岡教育大学紀要	6．最初と最後の頁 27-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 鈴木幹雄	4．巻 10(2)
2．論文標題 グローバリゼーション下2010年代ザクセン州にみる中等教育カリキュラム構成・開発の調査・研究―ドレスデン市ならびにドレスデン近郊におけるギムナジウム教科「芸術」を事例として―	5．発行年 2017年
3．雑誌名 神戸大学人間発達環境学研究科研究紀要	6．最初と最後の頁 173-184
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 鈴木幹雄	４．巻 10(2)
２．論文標題 グローバリゼーション下2010年代ザクセン州にみる中等教育カリキュラム構成・開発の調査・研究―ドレスデン市ならびにドレスデン近郊におけるギムナジウム教科「芸術」を事例として―	５．発行年 2017年
３．雑誌名 神戸大学人間発達環境学研究科研究紀要	６．最初と最後の頁 185-195
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計5件（うち招待講演　4件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 鈴木幹雄
２．発表標題 シュトゥットガルトにおけるアドルフ・ヘルツェルと20世紀造形的構築性コンセプトの誕生
３．学会等名 第55回大学美術教育学会
４．発表年 2016年

１．発表者名 阿部　守
２．発表標題 Installation－YOKOHAMA
３．学会等名 個展　1010美術/横浜（造形理論を基とした立体造形の発表）（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 阿部　守
２．発表標題 展覧会「LIFESTYLES Kunst aus Fukuoka」（ハンブルクの地でバウハウスを思索しつつ展開した制作活動）
３．学会等名 発表場所（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 阿部　守
２．発表標題 場に立つ
３．学会等名 ：展覧会”BAREHANDS　ASIAN　ARTISTS RESIDENCY PROJECT ― FUKUOKA”（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 阿部　守
２．発表標題 Imaginary Circle
３．学会等名 個展（詩と音楽を基に詩人と即興音楽家とのコラボレーションを行う。実験的な展開の試み）（招待講演）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計5件

１．著者名 鈴木幹雄	４．発行年 2020年
２．出版社 風間書房	５．総ページ数 268
３．書名 ２０世紀ドイツにおける造形表現研究と発想法教育学―シュトゥットガルト、バウハウス、イッテンの系譜	

１．著者名 阿部　守	４．発行年 2018年
２．出版社 石風社	５．総ページ数 63
３．書名 鉄を鍛く	

１．著者名 鈴木幹雄	４．発行年 2017年
２．出版社 神戸大学人間発達環境学研究科鈴木幹雄研究室	５．総ページ数 27
３．書名 苦難に生きた亡命ドイツ人芸術大学長達とその戦後遺産を再考する（神戸大学退官記念講演資料ブロシュール）	

１．著者名 阿部　守	４．発行年 2017年
２．出版社 miyataproduct	５．総ページ数 16
３．書名 「LIFESTYLES展」in Hamburgを振り返って」 LIFESTYLES Kunst aus Fukuoka	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	阿部　守 (ABE MAMORU) (60167947)	福岡教育大学・教育学部・教授 (17101)	